

研究課題	秋冬期における一、二年生草花の展示栽培（ブプレウルム）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	山口 次郎, 渡辺 智之, 船木 武人, 渡邊 一彦
研究期間	2020～（1年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。

2 方法

(1) 供試品目：ブプレウルム（5品種、図1）

グリフィティ（極早生，早生，中晩生）	<福花園>
ブプレウルム	<タキイ>
グリーンゴールド	<ミヨシ>

(2) 試験区の構成・規模

各品種各 80 株（40 株×2 反復）

(3) 耕種概要

- ア 試験圃場：鉄骨ハウス 4
- イ 播種：7月17日
- ウ 種子冷蔵：播種後パッキングして2℃で2週間
- エ 定植：8月25日
- オ 栽植様式：畝幅 80 cm，条間 15 cm，株間 15 cm，4 条植え
- カ 施肥：基肥（kg/10 a）N-P₂O₅-K₂O= 10-10-10
追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。
- キ 電照：定植から15日後より日長延長（日没後～PM10:00）
- ク 保温：11月上旬から保温開始（二重カーテンにて）
- ケ 摘芯：なし

(4) 調査項目

採花日，採花本数，切花長，莖径，節数，側枝数，切花重
※年内採花を想定しているため，12月21日で調査終了

3 結果の概要

- (1) 発芽は良好であったが、覆土が少なかったために根が浮き上がってしまうものが多かった。また、定植後に枯死する株が多数みられ、採花率低下の原因となった（図2）。これは、定植時の植え傷みと高温によるものと考えられる。生き残った株は全て採花できた。
- (2) グリフィティシリーズの平均採花日は全て10月24日となり、極早生・早生・中晩生の違いはみられなかった。他品種も10月25日～26日が平均採花日となり、品種間で大きな差はみられなかった（図3）。
- (3) 切花長は全品種で60 cm 台となり、大きな差はみられなかった（図3）。側枝数も全品種で5本前後と大きな差は見られなかったが、重量がグリフィティ極早生が23.5 g と最大となり、グリフィティ中晩生が15.7 g と最小の値となるなど、品種間で差がみられた（図3）。

4 まとめ

本試験では、本来秋播きで春咲きのブプレウルムを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。厳暑期の播種・定植栽培であるため、種子冷蔵や育苗時の遮光、定植後のミスト散布などの処理を行った。

定植後の枯死が多く発生したが、枯れなかった株は全て採花が可能であった。ボリューム面で

はグリフィティ極早生とグリーンゴールドが勝っていた。平均採花日は品種間で大きな差は見られず、10月25日前後であった。

枯死の原因として、植え付け時の高温に加え、定植時に根鉢が崩れたことで根が傷んだこと(植え傷み)が考えられるため、播種床の資材(プラントプラグなど)の検討等が必要と思われる。

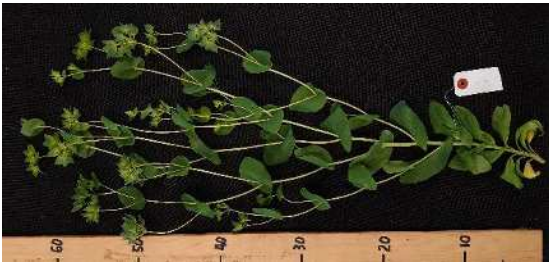


図1 ブプレウルム写真（全体、花拡大）

図2 定植後に枯死した株の様子

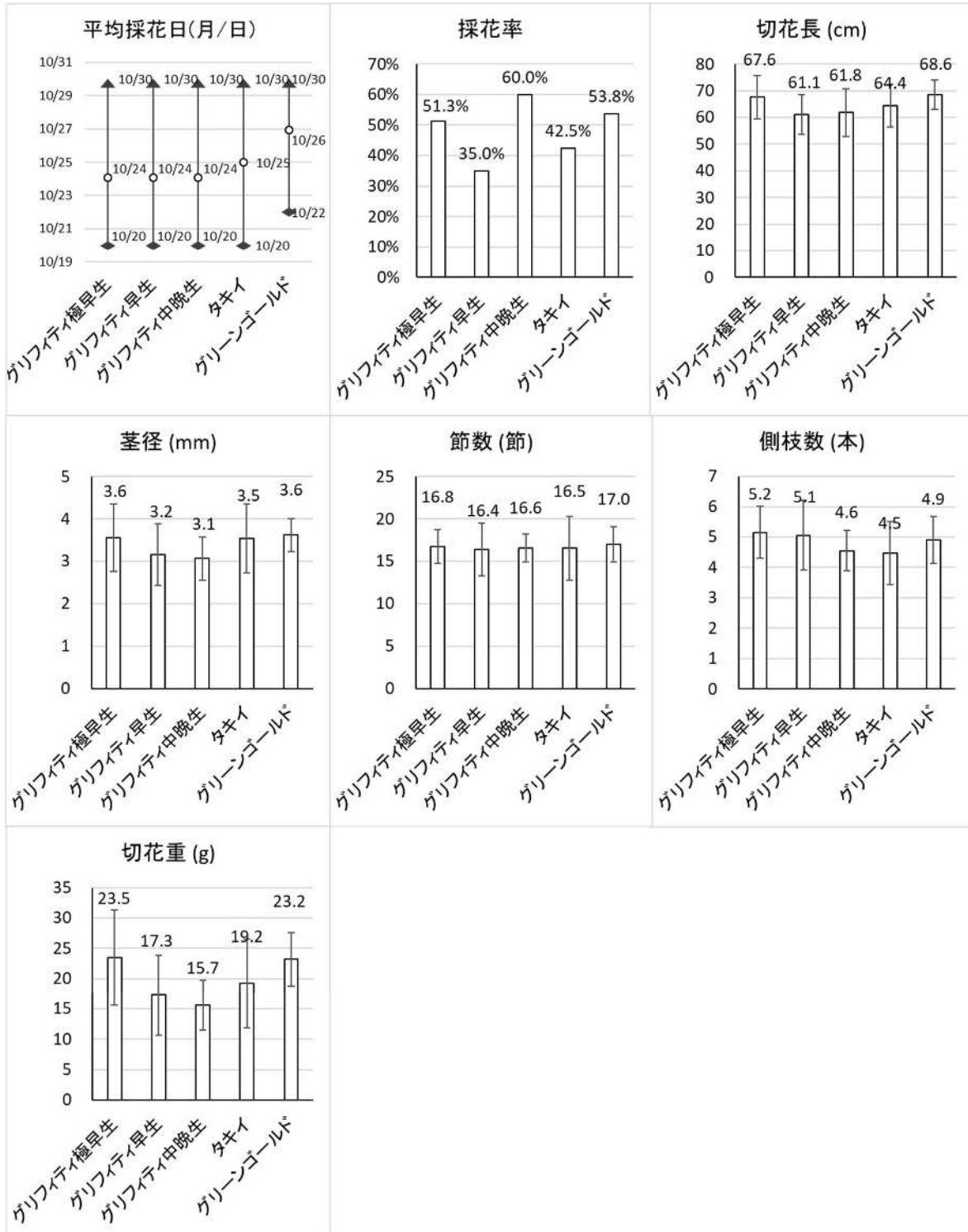


図3 ブプレウルム切花結果（切花長，茎径，節数，側枝数，切花重，：n = 10）